

公共交通に関する 住民アンケート結果 概要

《 アンケートの趣旨・概要 》

1. 実施目的 バス交通に関する住民意識や地域の実態などを把握し、今後の公共交通の施策に反映させるための資料とする
2. 調査概要

対象者	本市に住民票を有している15歳以上85歳以下の者 (基準日:9月1日)
抽出方法	旧小学校区ごとに人口比率で調査対象者を無作為抽出
抽出数	2,500名
調査方法	郵送による調査票の送付・回収
調査時期	平成25年9月6日(金) ~ 平成25年9月27日(金)
回答数	1,124名 【回収率 44.96%】

1. 日常生活における移動実態について

- 回答者のうち、運転免許保有者は65%
 - 外出目的のうち「通勤」・「私用」については、『自家用車』を移動手段としている人が最も多い。
 - 一方で、「通学」については、『家族の送迎』が最も多く、バスの利用は『鉄道』に次いで3番目となっている。
 - 家族の送迎を受けている理由
 - ① 交通機関の運行時間が自分の通勤通学等の時間に合わない
 - ② 金銭的に送迎の方が安い
 - ③ 他に交通手段が無い であり、ほぼ同水準の回答数であった。
- 送迎先については、「最寄の駅」が多数を占めた。
- やはり、自家用車が日常生活における移動の中心となっている。

2. 市内路線バスの利用状況について

- バスの利用状況については、「ほぼ毎日」が4.4%、「週に2～3日程度」を含めても8.9%であった。回答者の年齢内訳をしてみると、利用者が最も多いのは10代の学生であり、次いで70代、60代の高齢者となっている。
- 一方で、「ほとんど利用しない」は65%、「年に2～3回」を含めると74.2%にのぼる。
- バスの利用目的については、「買物」・「通学」・「通院」が多数を占め、「通勤」での利用は非常に少ない。
- バスの利用時間帯の多くは、6時～8時の通勤通学時間帯と16時～20時の下校・仕事帰りの時間帯。
- バスを利用する理由については、「他に移動手段がない」が最も多く、自家用車等の移動手段がない市民にとっては、バスが重要な移動手段となっていることがわかる。

3. 市内路線バスの満足度について - ①

- 現在利用しているバスへの満足度については、
「満足している」が14.5%、「ほぼ満足している」が28.3%となり、合算すると42.8%となった。
- 一方で、「やや不満である」が25%、「不満である」が14.5%、「非常に不満である」が4.8%となり、3項目を合算すると44.3%
大きく分類すると、バスに『満足している人』と『不満を持つ人』の割合は約半数ずつとなる。
- また、バスに不満を感じている人の年齢内訳を見ると10代が最も多く、43%にのぼった。

3. 市内路線バスの満足度について - ②

- バスを利用しない理由及び抵抗を感じる点について、
 - ① 運行本数が少ない【26.1%】
 - ② 運賃が高い【19.7%】
 - ③ 自家用車を利用するため【14.6%】
 - ④ 運行時間帯が悪い【11.8%】 であった。

- やはり、「運行本数が少ないこと」と「運賃が高い」ことが構成比の約半数を占めており、バス利用への高いハードルとなっている。

4. バス交通に対する意見について

- 現在のバス停について感じていることについては、「特に問題はない」との回答が半数であった。
意見として多かったものは「バスを待つスペースが無い」、「バス停にベンチ等を設置して欲しい」であった。
- バスの車両についても、同じく「特に問題はない」との回答が半数以上の約6割を占めた。
意見として多かったものは「料金の支払いが面倒」、「ステップの段差がきつい」、「乗り降りしにくい」であった。
- バスを利用するにあたっての希望時刻については、20時台、21時以降という回答が多く、夜間の利用を望む声が多かった。

5. バスの利用促進に関する意見について-①

(1) どうすればもっとバスを利用しますか。(複数回答可)

- ① 運賃を下げる 【32.8%】
- ② 運行本数を増やす 【27.4%】
- ③ 運行時間帯の変更 【9.4%】
- ④ バス停の環境改善 【8.9%】
- ⑤ バスに関する情報提供の充実 【8.2%】

①・②の回答が多数を占め、2項目の構成比で6割にのぼった。

5. バスの利用促進に関する意見について-②

(2) 仮に定額運行を行う場合、あなたは上限いくらまでの運賃なら、バスを利用したいと思いますか。

- ①「200円」【34.6%】
- ②「300円」【28.1%】
- ③「金額に関わらず利用しない」【15.7%】

やはり選択肢の中で最も低額であった「200円」が最も多い結果となったが、一方で「金額に関わらず利用しない」という意見も3番目に多い結果となった。

(3) 運行間隔はどの程度なら利用したいと思いますか。

「30分～40分未満」が最も多く、構成比で約7割を占めた。

6. 公共交通の利便性を増やすためのアイデアや意見について

- 様々な意見が寄せられたが、多かった意見として「バスを小型化し、燃料費を削減する」【54人】があった。大きなバスに、ほとんど人が乗っていない光景が、市民に非常に非効率に写っているようである。
- また、ここでも「運賃を下げ、運行本数を増やす」という意見が多く挙げられた。【54人】
- 市内の循環バスの運行を望む声もあった。【32人】

7. 調査結果より

- アンケート結果から、路線バスの利用が低い背景としては、自家用車等の利用、家族による送迎など、路線バスを利用しなくても移動できる環境が既に整っているということに加え、自宅近くにバス停があり、路線バスが利用できる環境が身近にあっても、運賃が高く、運行本数が少ない等の理由により、路線バスを利用したくても利用できない状況であることを再認識した。
- やはり利便性を考えても、バスが自家用車に対抗することは難しく、特に20代～60代の現役世代については、自家用車からバスの利用へのシフトは非常に難しいと考えられるため、現在、通学に家族の送迎等を利用している10代の学生(高校生)や、高齢者にターゲットを絞り、バスの利用促進を図ることも必要であると感じた。